

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 戦後の日本のあゆみ

2 単元について

戦後、1955年から1970年代初頭までの約20年間は、高度経済成長期と呼んでいる。この時期の経済成長率は、年平均10%に達し、国民総生産はわずか15年で4倍以上に拡大した。この世界に例を見ない経済成長によって、日本の国民総生産は資本主義国の中でアメリカについて第2位となり、日本は「経済大国」に発展していった。

この時期、国民の生活は大きく変化した。「三種の神器」と呼ばれる電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビが急速に普及し、更に、1970年代以降には「3C」と呼ばれるカラーテレビ、自家用車、クーラーが普及し、物質の面で大変豊かになった。所得も倍増し、大卒の初任給に関しては、約3倍も上昇している。しかし、この豊かな生活と引き換えに様々な問題も発生した。一つは、「四大公害」をはじめとする各種の公害や、乱開発による住環境の悪化・粗大ごみの増大など、環境に関する問題を引き起こしたことである。また、二つ目は、「集団就職」や「通年出稼ぎ」等に見られるような農村から都市への大量の人口移出をもたらしたことである。このことにより都市部では過密化が起こり、農村部では「三ちゃん農業」等、今日につながる農村社会の過疎化・高齢化の原因を作ることにもなった。

そこで、戦後から今日につながる日本のあゆみを、高度経済成長を手掛かりにとらえさせ、考えさせていく単元を設定する。高度経済成長は、国民の生活を豊かにしたとともに、様々な面で問題も残していった。それらを調べさせ、考えさせていくことは、これからの社会を担う子どもたちに、社会が進むべき方向を考えさせていくという意味において意義あることである。また、歴史は過去のできごとを扱う学習ではなく、過去は現在につながっていること、更にそれらは未来にもつながっていることを意識させるのにも適した単元である。

児童が住む小学校の校区は、新興住宅地に当たり、核家族で生活する家庭が多い。家族のほとんどが戦後生まれであり、児童は、戦中戦後の生活の話を日常的に聞いているわけではない。しかし、総合的な学習の時間で「戦争・平和」をテーマに学習し、戦争の恐ろしさ、平和の大切さについては強い思いをもつようになっており、戦後、国民が生きるために精一杯だったことにも気付いている。戦後の改革や高度経済成長が児童の今日の生活の便利さを実現することにつながっていたり、今日にも残る課題の発端の一部になっていたりに対しては気付いていない。

学習への態度としては、これまで資料の中から必要な情報を見付けること、また、それに対して自分の考えをもつことの2段階で指導がなされており、単なる資料の丸写しではなく、資料をきちんと活用できる児童は多い。自分の考えはもつものの、それを人前で積極的に話すことに抵抗をもつ児童は多い。しかしながら、意見をぶつけ合うことに対して楽しさを感じている児童は多く、討論意思決定型の授業においては児童の積極的な発言が期待できる。社会科で討論意思決定型の授業の形態を採るのは今回が3回目である。しかし、これまでの2回は、主に自由討論による意見交換であり、立論、反論、再反論といったフォーマットで討論を行うのは今回が初めてである。文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が一部にあり、意思決定後の判断理由を明確にさせて文章記述させる際には配慮を要する。

指導にあたっては、終戦直後の生活の様子と高度経済成長期の生活の様子を対比させる中で、我が国がわずかな期間で復興できたことに驚きをもたせ、学習問題「日本はどのようにして戦後から立ち直っていったのだろうか」を設定する。

その後、政治の面での民主化の働きや外交面での独立の回復とアジアでの地位の確立について資料や聞き取り調査を基に調べさせていく。更に当時の人々の努力や他国の協力により高度経済成長が起こったことを理解させる。

高度経済成長に結び付いた国内外の働きが整理できたところで、高度経済成長は、手放しで喜べることなのかと揺さぶりを掛ける。四大公害をはじめとする環境問題等に気付かせ、新たな学習問題「高度経済成長は今日の日本によい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか討論を通して考えよう」を設定する。児童には、これまでの学習で獲得した情報を基に、評価するかしないかを4つの選択肢から選ばせる。(第1次意思決定)。評価の基準は個人の主観になるが、それにより、高度経済成長は今日の日本のためになったとする「評価する側」、また、負の部分が多かったとする「評価しない側」に分ける。このとき、なぜそのように評価したのか理由を文章で記述させておく。

その後、高度経済成長が今日の日本によい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか、討論を通して集団思考することを伝える。討論に向けては、主に反論と再反論を準備させる。教師側で準備した資料や聞き取り調査を基に、根拠ある意見をつくれるように支援する。

討論では、時間を区切って主張をさせる。主張の後は、教師側で児童の主張を解説し、双方の伝えたいことが伝わるように支援する。また、板書においても、児童の思考を整理しやすいように工夫する。

討論を終えた後、高度経済成長を再び4つの選択肢を用いて評価させる(第2次意思決定)。その際、4つの選択肢の間も評価できるようにし、わずかな評価の違いも表せるようにする。また、どのように評価が変わったのか、また、その評価に確信をもったのかについても再び文章で記述させる。その際、説得力のある文章とはどのようなものが気付かせ、文章を作成する際の構成の仕方を視覚的に指導したり、具体的な例を入れさせたりして、判断理由を明確にして文章化させたい。

3 単元の総括目標

我が国の戦後の高度経済成長が現代に及ぼした影響を吟味することにより、よりよい社会の発展の方向を考えることができる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
戦後の国内外の動きについて意欲的に調べ、よりよい社会の発展について意見を表そうとする。	高度経済成長における影響を多面的に考察し、その功罪を判断することができる。	教師が与えた資料や、聞き取り調査を通して、自分の主張をまとめたり、討論を通して考えたことを論理的に文章にまとめたりすることができる。	戦後、我が国は平和的・民主的な国家になるために、様々な改革を行ってきたことやその影響を理解することができる。

5 評価

時	評価規準 (評価の方法)	評価基準および支援()		
		十分達成	おおむね達成	努力を要する
1	戦後の日本の復興に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート)	学習後の感想に、復興のはやさに驚いたことや学習への意欲・関心を具体的な例を挙げて記述している。	学習後の感想に、復興のはやさに驚いたことや学習への意欲・関心を記述している。 具体的な例を挙げるよう声掛けする。	学習後の感想を記述することができない。 学習を振り返らせ、どんなところが印象に残ったか個別に話し合う。
2	日本が平和的で民主的な国家を作ろうとしたことを理解することができる。 【知識・理解】 (ワークシート)	戦後の改革が平和的・民主的な国家作りを目指しており、今の時代にも受け継がれていることを理解している。	戦後の改革が平和的・民主的な国家づくりを目指していたことを理解している。 今の時代と比較させ、当時の改革の内容が今の日本の社会につながっていることに気付かせる。	戦後の改革が個別的な知識でとどまっている。 改革を類別し、それからどのようなことを目指していたか考えさせる。
3	日本が独立を回復し、国際社会の中で地位を高めていったことを理解することができる。 【知識・理解】 (ワークシート)	日本が独立を回復し、国際社会の中で地位を高めていったことを理解しているとともに、その意味に気付くことができる。	日本が独立を回復し、国際社会の中で地位を高めていったことを理解している。 独立の回復や国際社会の中での地位の向上により、どのように変わったのか考えさせ、その意味に気付かせる。	日本が独立を回復していった経緯を理解していない。 日本が戦後占領下にあったことと、様々な努力により独立を回復していったことを比較させる。
4	高度経済成長には功罪両面があったことを知り、評価することができる。 【思考・判断】 (ワークシート)	評価をし、その判断理由を具体的な例を挙げながら文章に表している。	評価をし、その判断理由を明確にして文章に表している。 判断理由に具体的な例を挙げるよう声掛けする。	評価をすることができない。または、評価の判断理由を文章に表すことができない。 個別に支援し、どちらの立場を取るか、また、なぜそう思うのか話し合う。

5 6	<p>討論の流れを意識しながら原稿を考 えることができる。 【思考・判断】 (ワークシート) 相手を意識した原 稿や資料を準備す ることができる。 【技能・表現】 (ワークシート)</p>	<p>担当した役割の発言原 稿を複数準備するこ とができる。または、具 体的な提示資料を用意 することができる。</p>	<p>担当した役割の発言原 稿を1つ準備するこ とができる。 2つめの理由を考え るよう声掛けする。</p>	<p>担当した役割の原稿を 考えることができな い。 グループで相談させ たり、個別に支援し たりする。</p>
7	<p>進んで自分の考え を発言しようとし たり、意欲的に活動 に参加しようとし たりしている。 【関心・意欲・態度】 (発言・行動観察) 自分の考えを膨ら ませて話すことが できる。 【思考・判断】 (発言)</p>	<p>原稿に準備していたも の以外にも発言してい る。または、原稿を基 に、考えを膨らませて 話すことができている。</p>	<p>原稿に準備していた発 言が見られる。 例を付け加えるな ど、自分なりに考え を膨らませて話すよ う声掛けする。</p>	<p>発言が見られない。ま たは、活動に対する意 欲が見られない。 同じ意見でも自分の 言葉で発言するよう 促したり、意図的に 指名して話し合いを 行う当事者であるこ とを意識させたりす る。必要に応じてそ れぞれの発言をかみ 砕き詳しく解説す る。</p>
8	<p>討論を振り返り、高 度経済成長につい て評価することが できる。 【思考・判断】 【技能・表現】 (ワークシート)</p>	<p>評価をし、その判断理 由の中に反証を入れた り具体的な例を挙げた りしながら効果的に文 章に表している。</p>	<p>第1次意思決定のとき と同じ判断理由、また は、結論を導く理由の みを挙げている。 反証や具体的な例を 挙げるよう声掛けす る。</p>	<p>評価をすることができ ない。または、評価の 判断理由を文章に表す ことができない。 個別に支援し、どち らの立場を取るか、 また、なぜそう思う のか話し合う。</p>

6 単元計画（全8時間）

過程	学習活動	教師の指導・支援	時
つかむ	1 終戦直後の日本の様子と、高度経済成長期の日本の様子を比べ学習問題を設定する。	写真資料から、戦後わずかな期間でオリンピックの開催までこぎ着けたことをとらえさせ、敗戦国であった日本が、国際社会の中で重要な役割を果たすようになった事をとらえさせる。 三種の神器、3Cの普及の様子、また、大卒の初任給の上昇などのグラフを提示し人々の生活が豊かになっていったことをとらえさせる。	1
日本はどのようにして戦後から立ち直っていったのだろう			
もとめる	2 日本国憲法の制定と戦後の改革を調べる。	日本国憲法や戦後の改革により、どのように社会が変化するか、何を大切にしている社会なのかを考えさせ、日本が平和で民主的な国家をつくろうとしていたことをつかませる。	1
	3 戦後の世界の動きと日本の独立の回復を調べる。 ・国際連合 ・日米安全保障条約 ・沖縄返還	ワークシートの年表を整理させ、どのような動きがあったか概観をつかませる。 朝鮮戦争が朝鮮特需につながり、経済活動が活発になったことを説明する。	1
たかめる	4 高度経済成長について調べ、新たな学習問題を作る。	これまでの学習を想起させ、高度経済成長により日本が豊かになったことをまとめる。 高度経済成長は手放して喜べることなのか、揺さぶりを掛け、高度経済成長の負の部分に気付かせる。 高度経済成長の功罪について評価させる。 (第1次意思決定)	1
高度経済成長は今日の日本にいい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか評価しよう			
	5 討論の準備をする。	立論、反論、再反論を担当する役割ごとに意見を準備させる。 立論に関しては、既に主張がある状態であるが、そのよさや問題点がより分かりやすくなるように具体的な資料を集めさせ、立論の説得力を高めさせる。	2
	6 討論をする。	立論、反論、再反論の時間は区切って行うが、それぞれ出された意見は、教師側で解説をし、児童の思考を整理する。	1
つくる	7 討論を振り返り、高度経済成長を評価する。	公正な判断ができるように、情報の見方・考え方を指導し、高度経済成長を評価させる。 (第2次意思決定) 判断理由が明確に伝わるような説得力のある文書にするために、望ましい文章構成の仕方の例について説明する。	1

7 本時について (1 / 8)

(1) 本時の目標

戦後の日本がわずかな期間で復興していったことに気付き，学習のめあてをつかむことができる。
(社会事象への関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援
1 2枚の写真を見て話し合う。	<p>戦時中と，東京オリンピックの行進の様子の写真を提示し，敗戦国がオリンピックを開催するまでに何年かかるか予想させ，問題意識をもたせる。</p> <p>敗戦国が何年後にオリンピックを開ける国として認められるか考えさせるために，2003年5月に戦闘終了したイラク戦争を例に挙げる。</p>
戦争が終わって日本はどうなったのだろう	
<p>2 終戦直後の様子を調べる。</p> <p>3 東京オリンピックが開催された頃の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家電製品が一気に普及している ・ 賃金が2倍に増えている <p>4 学習問題をつかむ。</p>	<p>児童に事前に戦後の生活の様子を調べさせておき，それを基に，戦後の生活の大変さ，復興に向けての人々の努力について感じ取らせる。</p> <p>どのような時代だったのかを短い言葉でまとめさせイメージをつかませる。</p> <p>国民の生活が豊かになっていったことを感じ取らせるために，グラフから「分かること」「考えられること」を分けて考えさせる。</p> <p>三種の神器や3Cの普及の様子，賃金の上昇等のグラフを提示し，高度経済成長が訪れたことを知らせる。</p> <p>どのような時代といえるのか，短い言葉でまとめさせ，イメージをつかませる。</p> <p>学習問題を提示し，今後の見通しをもたせる。</p>
学習問題 日本はどのようにして戦後から立ち直っていったのだろう	
	<p>学習して分かったことや思ったことを一言感想に書かせる。 【評価】</p>

(3) 本時の評価

戦後の日本の復興に関心をもち，進んで学習に取り組もうとする。
(社会事象への関心・意欲・態度)

7 本時について(2/8)

(1) 本時の目標

戦後の改革や日本国憲法の三大原則を調べ、戦後の日本が平和で民主的な国家を作ろうとしたことを理解する。(社会的事象についての知識・理解)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援
1 学習問題をつかむ。	日本の復興の様子を調べるために、まず国内の様子から調べることを知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日本はどのようにして戦後から立ち直ったのか、国内の変化を調べよう。</div>	
2 戦後の改革について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・軍隊を解散する ・男女が平等になる ・女性が政治に参加する ・言論思想の自由を認める ・教育制度を改革する ・労働組合の結成をすすめる ・政治に影響を与えていた大会社を解散する ・政党が復活する ・ほとんどの農民が農地をもてるようになる 	戦後の改革について資料を基に調べさせ、ワークシートにまとめさせる。 戦後の改革がそれぞれどのような意味をもつのかつかませるために「 <input type="text"/> する(になる)ことにより <input type="text"/> になる」という文章にあてはめさせる。
3 日本国憲法について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1946年11月3日公布 ・1947年5月3日施行 ・占領軍の指導の下100日間の審議 ・三大原則 <ul style="list-style-type: none"> 国民主権 基本的人権の尊重 平和主義 	日本国憲法については、3学期の政治学習との関わりから、三大原則程度にとどめ、深入りはしない。 日本国憲法の審議には、戦後の改革により実現した女性の議員の意見も反映されていることにも触れる。
4 戦後の改革、及び日本国憲法の内容から日本がどのような国づくりを進めていたのか考える。	仲間分けをし、それぞれにタイトルを付ける作業をさせ、「平和」や「平等」「自由」などの言葉を出させるようにする。それらから「民主的」「平和」などの言葉を解説する。
5 本時の一言感想を書く。	学習して分かったことや気付いたことを書かせる。 【評価】

(3) 本時の評価

日本が平和的で民主的な国家を作ろうとしたことを理解する。(社会事象への知識・理解)

7 - 本時について (3 / 8)

(1) 本時の目標

戦後の世界の様子とともに、日本が独立の回復を成し遂げ国際社会での地位を確立していったことを理解する。
(社会的事象についての知識・理解)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援																																		
<p>1 学習問題をつかむ。</p>	<p>日本の復興の様子を調べるために、本時では国外の様子から調べることを知らせる。</p>																																		
<p>日本はどのようにして戦後から立ち直っていったのか、世界とのつながりから調べよう</p>																																			
<p>2 第2次世界大戦後、世界は資本主義と社会主義の国で二分されていたことを知り、日本はどちらについていたのか話し合う。</p>	<p>戦後の日本は資本主義国の仲間入りを優先し、国際社会の仲間入りを果たすことができたことを説明する。</p>																																		
<p>3 戦後の日本と関係する他国との年表を整理し、国際社会への仲間入りの様子を調べる。</p>	<p>国際社会の仲間入りをした経緯をつかませるため、年表を整理させる。</p>																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>日本と世界のできごと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1945</td><td>広島と長崎に原子爆弾が落とされた</td></tr> <tr><td>1945</td><td>国際連合ができた</td></tr> <tr><td>1946</td><td>日本国憲法が公布された</td></tr> <tr><td>1948</td><td>朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国が誕生した</td></tr> <tr><td>1949</td><td>中華人民共和国ができた</td></tr> <tr><td>1950</td><td>朝鮮戦争が起こった</td></tr> <tr><td>1951</td><td>サンフランシスコ平和条約を結び独立を回復した</td></tr> <tr><td>1951</td><td>アメリカと日米安全保障条約を結んだ</td></tr> <tr><td>1953</td><td>奄美諸島が日本に復帰した</td></tr> <tr><td>1956</td><td>ソ連と国交を回復した</td></tr> <tr><td>1956</td><td>国際連合に加盟した</td></tr> <tr><td>1964</td><td>オリンピック東京大会が開かれた</td></tr> <tr><td>1972</td><td>沖縄諸島が日本に復帰した</td></tr> <tr><td>1972</td><td>冬季オリンピック札幌大会が開かれた</td></tr> <tr><td>1972</td><td>中華人民共和国と国交を正常化した</td></tr> <tr><td>1978</td><td>日中平和友好条約を結んだ</td></tr> </tbody> </table>	年	日本と世界のできごと	1945	広島と長崎に原子爆弾が落とされた	1945	国際連合ができた	1946	日本国憲法が公布された	1948	朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国が誕生した	1949	中華人民共和国ができた	1950	朝鮮戦争が起こった	1951	サンフランシスコ平和条約を結び独立を回復した	1951	アメリカと日米安全保障条約を結んだ	1953	奄美諸島が日本に復帰した	1956	ソ連と国交を回復した	1956	国際連合に加盟した	1964	オリンピック東京大会が開かれた	1972	沖縄諸島が日本に復帰した	1972	冬季オリンピック札幌大会が開かれた	1972	中華人民共和国と国交を正常化した	1978	日中平和友好条約を結んだ	<p>サンフランシスコ平和条約の締結をきっかけに、国際社会とのつながりが深くなっていったことをつかませるために、年表の項目に「日本は」という主語をつけさせ、考えさせる。</p>
年	日本と世界のできごと																																		
1945	広島と長崎に原子爆弾が落とされた																																		
1945	国際連合ができた																																		
1946	日本国憲法が公布された																																		
1948	朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国が誕生した																																		
1949	中華人民共和国ができた																																		
1950	朝鮮戦争が起こった																																		
1951	サンフランシスコ平和条約を結び独立を回復した																																		
1951	アメリカと日米安全保障条約を結んだ																																		
1953	奄美諸島が日本に復帰した																																		
1956	ソ連と国交を回復した																																		
1956	国際連合に加盟した																																		
1964	オリンピック東京大会が開かれた																																		
1972	沖縄諸島が日本に復帰した																																		
1972	冬季オリンピック札幌大会が開かれた																																		
1972	中華人民共和国と国交を正常化した																																		
1978	日中平和友好条約を結んだ																																		
<p>4 日本が独立を回復し、国際社会への仲間入りをすることがどのような意味をもつことなのか考える。</p>	<p>朝鮮戦争の経緯や朝鮮戦争が日本の経済に与えた影響について説明する。</p>																																		
<p>5 本時の一言感想を書く。</p>	<p>オリンピックが開催されたのは1964年であるが、開催決定が決まったのは1959年である。わずか14年で、平和の祭典であるオリンピックを誘致するまでに地位が向上していたことを気付かせる。</p>																																		
<p>4 日本が独立を回復し、国際社会への仲間入りをすることがどのような意味をもつことなのか考える。</p>	<p>オリンピック開催に向け、新幹線や高速道路など交通が整備されたこと、また、テレビなどの家電製品も普及するなど、工業が目覚ましく発展し、生活が豊かになっていったことが分かるような資料を提示する。</p>																																		
<p>5 本時の一言感想を書く。</p>	<p>国際社会の中の一員になるとどのようなようになるのか、特に経済の面から考えさせるため日本を一つの店(食堂)に置き換えて説明する。</p> <p>学習して分かったことや気付いたことを書かせる。 【評価】</p>																																		

(3) 本時の評価

日本が独立を回復し、国際社会の中で地位を高めていったことを理解する。
(社会事象への知識・理解)

7 - 本時について (4 / 8)

(1) 本時の目標

高度経済成長には功罪両面があったことを知り，新しい学習問題をつかむことができる。

(社会な思考・判断)

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p>	<p>戦後，日本が独立を回復し，国際的な地位を高める中で高度経済成長に結び付いていったことを確認する。</p>
<p>高度経済成長が今日の日本に与えた影響について考えよう。</p>	
<p>2 高度経済成長のおかげで今日の日本にどのようなよい影響があるのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>物やお金が手に入り生活が豊かになった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>高度経済成長はよい影響を与えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>生活が豊かになることはよいことだから</p> </div>	<p>高度経済成長によりどのように変わったかを想起させる。</p> <p>もし高度経済成長がなかったら今の生活はどうなっていたのか予想させ，高度経済成長による恩恵を考えさせる。</p> <p>高度経済成長によってもたらされたよい面を図式化してまとめる。</p>
<p>3 高度経済成長により今日の日本に残された課題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>公害やごみ問題が起こり環境が悪くなった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>高度経済成長は悪い影響を与えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>環境が悪くなるのはよくないことだから</p> </div>	<p>高度経済成長期に5年生で学習した四大公害が発生していることに気付かせるため，公害病患者の写真や年表を提示する。</p> <p>四大公害以外にも，使い捨ての文化がつくられていたり，それに伴うごみ問題が発生したりするなど，身近なところにも問題があることに気付かせるため，写真資料を効果的に提示する。</p> <p>高度経済成長期は，経済発展が優先され，環境等への配慮は後回しにされたことを説明する。</p> <p>高度経済成長によってもたらされた悪い面を図式化してまとめる。</p>
<p>4 高度経済成長のよい面，悪い面を両面からとらえ，高度経済成長は今の日本にとってよかったのか悪かったのか評価する。</p>	<p>高度経済成長はあってよかったのか，なかった方がよかったのかという視点で考えさせる。</p> <p>「よかった・少しよかった・少し悪かった・悪かった」の4観点から選ばせ，その評価理由も書かせる。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p>
<p>5 新しい学習問題をつかむ。</p>	<p>次時からは，高度経済成長を「評価する側」「評価しない側」の2つの立場に分かれ，討論を通して更に深く考えていくことを知らせる。</p>
<p>高度経済成長は今日の日本によい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか</p>	

(3) 本時の評価

高度経済成長には功罪両面があったことを知り，評価することができる。(社会な思考・判断)

7 - 本時について (5・6 / 8)

(1) 本時の目標

討論に向けて立論や反論、再反論などの担当に分かれ、主張をまとめ準備をすることができる。
(社会的な思考・判断)

説得力を持たせるために資料を準備したり、話し方を工夫したりすることができる。
(観察・資料活用の技能・表現)

(2) 本時の展開

学習活動		教師の指導・支援	
1 本時のめあてをつかむ。		討論ゲームを想起させ、立論・反論・再反論の流れで討論を行うことをイメージさせ、特に反論や再反論の必要性を感じ取らせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">討論会に向けて準備をしよう。</div>			
2 討論の準備をする。		<p>それぞれの立場で、立論・反論・再反論の役割のグループに分かれ、グループで話し合いながら考えさせる。</p> <p>立論のグループにおいては、具体的な資料を集め、立論の説得力を高めるよう声掛けする。</p> <p>教師側で資料を準備し、その資料を活用して反論、再反論を考えさせる。必要に応じて他の図書資料等を用いさせる。</p>	
	立論	反論	再反論
評価する側	<ul style="list-style-type: none"> 物やお金が手に入り生活が豊かになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の国から比べると、収入が少ない。 他の国に比べると、家が小さい。 収入は増えたが、物価も高くなり意味がない。 他の国に比べると、物価が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 敗戦当時や、貧しい国に比べれば十分豊かな暮らしができています。 家は小さくても、家電製品などは、充実していて便利で豊かである。 大量生産ができるようになり安く買えるようになったものもある。 工業製品は安い。
	生活が豊かになるのはよいことだから		
評価しない側	<ul style="list-style-type: none"> 公害やごみ問題が起こり、環境が悪くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んだ技術で環境に優しい製品を作ることができる。 公害対策基本法など環境を守る厳しい法律ができた。 公害を克服し、以前より美しい環境を取り戻している所もある。 資源の有限性に気づきリサイクルが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境を守る製品は値段が高く、そこまで広まっていない。 今も公害病で苦しんでいる人がいる。 環境を元に戻すには時間とお金がいる。 リサイクルをしてもごみ問題が解決したわけではない。
	環境が悪くなるのはよくないことだから		
3 次時の学習の見通しをもつ。		<p>机間指導をし、上記のような議論の流れに近づけるよう助言する。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p> <p>それぞれの準備の様子でよかったところを称賛し、次時の学習への意欲を高める。</p>	

(3) 本時の評価

討論の流れを意識しながら原稿を考えることができる。
(社会的な思考・判断)

相手を意識した原稿や資料を準備することができる。
(観察・資料活用の技能・表現)

7 - 本時について（本時7 / 8）

(1) 本時の目標

高度経済成長の功罪についての討論において進んで発言し参加することができる。

（社会事象への関心・意欲・態度）

高度経済成長の功罪について討論を通して吟味することができる。（社会的な思考・判断）

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>高度経済成長は今日の日本によい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか 討論を通して考えよう。</p> </div>	<p>討論の勝ち負けではなく、高度経済成長が今日の日本のためによかったのか悪かったのかを、討論を通して集団で思考することを確認する。</p>
<p>2 討論をする。</p> <p>【評価する側の議論の構造と予想される反論】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>物やお金が手に入り生活が豊かになった。</p> </div> <p style="text-align: center;">↑</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>高度経済成長はよい影響を与えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生活が豊かになることはよいことだから</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・他の国から比べると、収入が多いとは言えない。 ・他の国に比べると、家が小さい。 ・収入は増えたが、物価も高くなり意味がない。 <p>【評価しない側の議論の構造と予想される反論】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>公害やごみ問題が起こり、環境が悪くなった。</p> </div> <p style="text-align: center;">↑</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>高度経済成長は悪い影響を与えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>環境が悪くなるのはよくないことだから</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・進んだ技術で環境に優しい製品を作ることができ、環境を守る先進国になっている。 ・公害を経験し、環境の大切さに気付き、公害対策基本法などの環境を守る厳しい法律もできた。 ・公害を克服し、以前より美しい環境を取り戻しているところもある。 ・資源の有限性に気付きリサイクルが進められている。 <p>3 次時の見通しをもつ。</p>	<p>討論のフォーマットは次の通りである。それぞれ時間を区切り、発言をさせる。作戦タイムに入る前に、それぞれの意見を整理し、反論の視点を与える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>討論のフォーマット</p> <p>評価する側立論</p> <p>評価しない側立論</p> <p>～作戦タイム～</p> <p>評価しない側反論</p> <p>評価する側反論</p> <p>～作戦タイム～</p> <p>評価しない側再反論</p> <p>評価する側再反論</p> </div> <p>立論はどのように生活が豊かになったのか、またどのように環境が悪くなったのか例を挙げさせ、お互いの主張に具体性が出るようにさせる。</p> <p>児童の発言を教師側で板書し、出された意見が見える形に残していく。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p> <p>次時は討論を通して、戦後の高度経済成長を評価すること、またその理由を文章で表す活動をするを伝える。</p>

(3) 本時の評価

進んで自分の考えを発言することができる。

（社会事象への関心・意欲・態度）

相手の発言を聞いて、発言内容を工夫して反論することができる。（社会的な思考・判断）

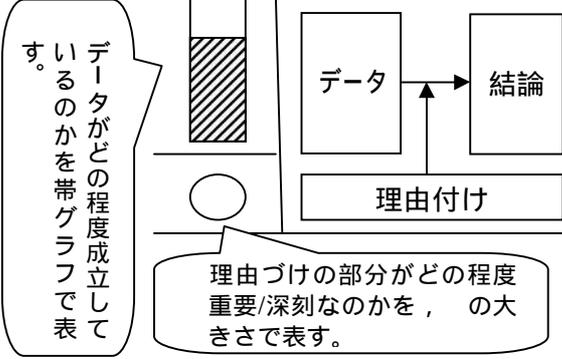
7 本時について（本時 8 / 8）

(1) 本時の目標

討論で吟味した高度経済成長の功罪を評価し，その評価理由を文章に表すことができる。

（社会的な思考・判断）

(2) 本時の展開

学習活動	教師の指導・支援
<p>1 前時の学習を振り返る。</p>	<p>前時の学習を想起させるために，黑板に前時の討論の流れを提示するとともに，児童の手元にも討論の流れをまとめたワークシートを配布する。</p>
<p>高度経済成長は今日の日本によい影響を与えたのか悪い影響を与えたのか評価しよう。</p>	
<p>2 戦後の高度経済成長を評価する。</p> <p>【評価の手順】</p>  <p>もう一方の立場と比べて総合的に判断する。</p>	<p>討論での立場を離れて判断することを確認する。</p> <p>それぞれの主張がどの程度成立しているのか，またどの程度重要 / 深刻な問題なのかを考えさせるため，評価の手順を説明する。</p> <p>判断は個人であるが，戸惑っている児童への支援のために，適宜グループ等での意見交換も行わせる。</p> <p>第1次意思決定での評価を基準に，戦後の高度経済成長の功罪を評価させるようにする。</p>
<p>3 説得力のある文章の作り方について考える。</p> <p>【説得力のある文章にするための3条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立場を明らかにする(結論を述べる) 判断理由を述べる(思考の過程を表す) 判断理由の具体例を挙げる 	<p>例文を対比させることを通して，討論の流れを生かすことの有効性，具体例を入れることの有効性に気付かせる。</p> <p>文章の構成の仕方を，具体例を示して説明し，参考にさせる。</p>
<p>4 評価理由を文章で記述する。</p> <p>【期待する文章例】</p> <p>わたしたちの生活が豊かになったので評価できると思う。 外国から見れば「ウサギ小屋に住むエコノミックアニマル」といわれるように家も小さく，労働時間も長い，それでも，家の中にはたくさんの電気製品があふれ，便利になった。 また週休2日の会社も増え，以前より労働時間も短くなり，休みの日に家族で遊びに行くことも増えた。 環境に対しては，破壊していた時期があったが，進んだ日本の技術でハイブリットカーなど環境に優しい製品もできている。これも高度経済成長のおかげだと思う。 だから，高度経済成長は今日の日本によい影響を与えたと思う。</p>	<p>評価をする際に自分が重要視した議論の流れ(主張から反論・再反論まで)に印を付けさせそれをつなげて一連の文章として表現させる。その際，説得力を高めるために，なるべく具体的な例を出させるようにさせる。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p>
<p>5 単元全体を振り返り，「高度経済成長から学ぶこと」というテーマで一言感想を書く。</p>	<p>自分たちの暮らしと経済の成長，環境の保護等を視野に入れさせ，短くまとめさせる。</p>

(3) 本時の評価

高度経済成長について評価し，評価理由を文章に表すことができる。（社会的な思考・判断）